

10月9日(木)

5年生が西浦焼愛好会の皆様と西浦焼窯跡地を巡りました。

幕末から昭和初期にかけて焼き上げられた西浦焼の窯跡には、作業で使ったであろう深い井戸が今でも残っています。学校から窯跡に向かう林の中の細い小道が土などを運ぶのに使われたということです。初代吉田土作をこの地に呼び寄せた松田貞右衛門さんのお宅とお墓は窯跡近くにあります。西浦焼愛好会会長の松田さんは、「西浦焼のことを子どもたちに知ってもらい、西浦焼の保存、継承をしてもらえるとうれしい。」と話してくださいました。



6年生は西浦地区自主防災対策部長の山崎さんから、なぜ地震が起こるのか、地震が多発する地域、西浦地区の防災組織、自助、共助、公助、各家庭で取り組んでほしいことなどを詳しくお話いただきました。児童は、自分のこととして真剣に話を聞き、家に帰ってからすぐにできることなどを伝え合っていました。西浦地区は、防災について非常に熱心に取り組んでおられます。児童は、この恵まれた環境の中で、様々な知識・技能を獲得し、防災意識を高めることができます。

